

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもと
づく医療・介護の実践

くらしと健康

発行 医療法人財団 東京勤労者医療会 1部60円

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7
TEL (3404) 7661

E-mail address yo_sosiki@tokyo-kinikai.com

友の会会員は会費に購読料がふくまれています。



右から藤島看護師、伊丹信次さんと奥さん、井上医師

在宅患者さんの 強い味方

外 苑 診療所

「在宅支援診療所」は、通院困難な患者さんが安心して在宅療養できるように24時間支援を行う診療所です。去年4月にスタートした制度で、定期的な訪問診療や休日、夜間の緊急時にも往診を行え、各連携事業所との24時間連携で在宅医療活動を行います。外苑診療所は「在宅支援診療所」として現在、約130件の在宅患者さんへの訪問診療を行っています。伊丹信次さん宅を訪ねました。(編集部)

療養生活に張り

んと二人暮らしです。信次さんは電気関係の研究所で技術者として働いてきました。勤めている頃に耳を悪くしたことがもとで不眠など体調を崩したといいます。

食事がとれなくなり32キログラムまで痩せてしまった信次さんは、区内の病院に入院し胃ろう造設の手術を受けました。約半年後、主治医から施設入所を勧められたものの、高額な負担や「施設はいや」という信次さんの思いもあり自宅退院となりました。

「胃ろうの扱いについて教わったものの、ややこしくて困っていた」という奥さん、代々木訪問看護ステーションからの訪問看護、クリニック千駄ヶ谷(当時)の訪問診療も受けるようになりま

導、訪問介護を受け、ケアマネさんも月1回訪ねてくれます。皆さんが運んでくれる若いエネルギーが、療養生活に張りを与えてくれるんです」と語っていました。

訪問診療

大幅に増え



伊丹さんは、月2回、訪問診療を受けています

した。そのころの信次さんは「寝たきり」で、奥さんは、毎晩ベッドの横に布団を敷いて介護する日々、「このままでは、奥さんが倒れてしまう」とケアマネージャーに勧められ、区内のショートステイを利用したこともあり

ようになり、24時間相談を受けられるようになった。信次さんは急性肺炎になったとき、代々木病院に入院しました。十二指腸潰瘍も見つかり、手術を受けました。ようやく落ち着いた。信次さんは別の病棟に移り、ナースステーションでリハビリかねて手伝いも「楽しかった」と語りま

す。「身近に代々木病院があったて助かりました」と奥さん。「いまは、お粥などを食べられるようになった」と語りま

す。「渋谷区、新宿区が主な診療地域です。高在宅医療、高齢者医療

24時間態勢で130件の訪問診療

ご相談窓口
☎03(5786)2470

手術台

都会に住むと雨はうつつうしい。コンクリートを打つ雨は何の風情もない。農村だって雨が續くと

うつつうしい。しかし、緑に降り注ぐ雨はやさしく、そして何よりも生命を育てているという実感があつた。梅雨(モンスーン)がなかったら、東南アジアや中国、日本はありえないのである。だから、空梅雨で、陸稻が枯れ始めると子供でも心が痛んだ。雨は植物だけでなく、虫や蛙や鳥たちを育て6月は生命の大合唱のときである。それを知る人間には豊かな情感を育てた。「菜種梅雨」「戻り梅雨」「梅雨の晴れ間」などの美しい言葉を生み、人はそれが表す情景を鮮やかに思い出すことができる。いまはもうそのような感性は磨り減ってしまった。損をしている。より寂しさが先にたつ。それでも新宿御苑や外苑の木々に囲まれている代々木病院にいます。まだ季節感を失わずに済む。もしかしたらこれが代々木病院の一番の付加価値かもしれない。知らず知らずに御苑の花や街路樹に癒されているからである。(な)